

■伊藤晴雨 生涯責め絵による女体美を描き続けた異端の画家。

いとうせいう

新体詩抄・1882＝ 浅草で彫金師の子に生まれる。本名は伊藤一。

物心つくころには一家は向島に居住し、幼少時から“絵の天才”といわれ、近くに住む光琳派の絵師野沢堤雨に弟子入り。同門に久保田万太郎がいた。

帝国憲法発布1889＝ 7歳：

大津事件・1891＝ 9歳：自伝によれば、この年、責め芝居を見て大いに心うごく。小学校時代から同級女生徒の乱れた髪に魅力を感じる早熟な少年だった。

日清戦争始・1894＝12歳：本所の象牙彫刻師内藤静宗のもとに丁稚奉公に出される。

ピアノ国産化・1900＝18歳：

日露戦争終・1905＝23歳：半年のお礼奉公を残して内藤家を飛び出す。画家を志すが仕事にありつけず、芝居小屋に入りびたるうち、芝居の看板絵描きとなる。

韓国反日暴動1907＝25歳：{毎夕新聞}に入社。連載の講談や小説の挿絵に加えて、次第に演劇評も担当するようになって好評を博し、やがて他誌にも筆を揮う売れっ子挿絵作家になって行く。

伊藤博文暗殺1909＝27歳：包茎の手術。その数日後、劇評家寺堂得知の仲人で新派の背景画家玉置照信の義妹竹尾と結婚。

明治天皇没・1912＝30歳：長男が誕生。新聞挿絵の傍ら、{演劇画報}に芝居スケッチを描き始める。

ロシア革命・1917＝35歳：長女が誕生。

本格政党内閣1918＝36歳：この頃、*鈴木かねよ(お葉)をモデルに、責め絵を描くとともに、画号を晴雨に改める。

ベルサイユ条約・1919＝37歳：お葉は竹久夢二のもとへ去る。竹尾と離婚し、知り合った美術学校のモデル佐原キセ(婦世子)と同棲し始め、キセをモデルに、初めて「雪責め」を撮影。

原敬首相暗殺1921＝39歳：妊娠中のキセを逆さ吊りに実験撮影。{早稲田文学}に晴雨モデルの鈴木泉三郎の戯曲「燔刑」掲載。

関東大震災・1923＝41歳：大震災で新聞社等との関係が全滅し、収入皆無となる。新国劇の仕事始める。

護憲三派圧勝1924＝42歳：「燔刑」が「火あぶり」と改題されて有楽座で上演される。

日本時代始・1926＝44歳：雑誌{変態資料}が、5年前の妊婦逆さ吊り写真を扉絵に掲載し、発禁処分。

金融恐慌・1927＝45歳：*「いろは引江戸と東京風俗野史・巻の一」を刊行。この年、性心理学者高橋鐵とはじめて出会う。

共産党事件・1928＝46歳：「責めの研究」を刊行するも発禁。

海軍軍縮条約1930＝48歳：石版の限定版艶本「論語通解」を印刷するが発売前に没収。警察取調べ中に新国劇の舞台装置を描き話題。

満州事変・1931＝49歳：3度目の妻(入籍はしていない)が発病。

五一五事件・1932＝50歳：「美人乱舞」を刊行。*「いろは引江戸と東京風俗野史」はこの年巻の六まで続け、江戸東京の市井風俗を描きとどめた資料として高評価を受けたが、

帝人疑獄事件1934＝52歳：*精神病院で療養していた妻が死去し、多大な借金を抱え、時代も変わって退場せざるを得なくなる。

二二六事件・1936＝54歳：

日中戦争始・1937＝55歳：

日米開戦・1941＝59歳：

年金+総武装 1944＝62歳：長男が戦死。

敗戦・1945＝63歳：駒込の自宅が戦火で焼失し、写真や書籍など長年蒐集した資料全てを失うが、

戦後の解放感に対応して、カストリ誌などに絵や随筆を寄せて「責めの大家」ぶりをアピールし、

独立回復・1951＝69歳：雑誌{あまとりあ}の付録絵「女賊捕物帳」が発禁に。

自衛隊発足・1954＝72歳：

安保闘争・1960＝78歳：長い挿絵画家としての功績で、出版美術連盟賞を受賞して、

たいたい病始・1961＝79歳：没した。